

2022年度事業計画

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

I. 基本方針

当法人では、2021年に新ビジョン実現に向けたアクションプランを策定し、スペシャルオリンピックス活動を持続性のあるものにしていくことを目標に掲げ、①事業 ②組織 ③経営という3つの重点領域を設定し、2025年までの中期目標を定めたが、本年は、アクションプラン実行フェーズとして、Be with all 事業の推進と共に各重点領域において整理した課題に着手していく。また、引き続き、新型コロナウイルスの感染予防対策を重要視しながら、ナショナルゲーム広島の開催やSOユニファイドカップの海外派遣等、ウイズコロナにおける対面型競技会事業の再開に取り組むものとする。

【 アクションプラン 2021-2025 】

① 事業

<イノベーション事業>

- ・“Be with all”の普及促進
- ・ICTを活用した事業推進

<スポーツ事業>

- ・スポーツ活動の充実
- ・持続可能な競技会/大会の開催

② 組織

- ・組織全体の適正なガバナンスの確保と最適な新組織体制の構築
- ・国内SO組織の再定義

③ 経営

- ・経営、財務資源の最適化
- ・人材マネジメント

【 SONのミッション、ビジョン 】

<ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

<ビジョン>

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通じた様々なユニファイド活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

ステイトメント: 多様な人々が生きる社会の実現を目指す

スローガン: 「Be with all」

本ビジョンを推進する事業を「Be with all 事業」と称する。

II. 競技会開催事業

1. 2022 年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島 開催

本大会では、従来の大会運営に加え、新型コロナウイルス感染症対策を行い、SON 新型コロナウイルス基本方針ガイドラインに基づき十分な検討を行い、危機管理体制の構築等、参加者の安全を第一に考え、大会の成功へ向けて準備を進める。

なお、本大会は「2023 年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン」の国内予選を兼ねている。

開催期間：	2022 年 11 月 4 日(金)～6 日(日)
	11 月 4 日(金) 開会式
	11 月 5 日(土) 競技(予選、ディビジョニング)
	11 月 6 日(日) 競技(決勝)/ 表彰式 / 閉会式
開催地：	広島県内各所(広島市、呉市、三原市、北広島市)
大会規模：	- アスリート・パートナー 約 900 名 - 選手団役員・コーチ 約 600 名 - 大会役員・審判 約 350 名 - ボランティア 延べ 4,000 名 - 観客 延べ 10,000 名
実施競技：	11 競技 + デモンストレーション ・陸上競技 ・バドミントン ・バスケットボール ・ボウリング ・馬術 ・柔道 ・サッカー ・競泳 ・卓球 ・テニス ・フライングディスク ・自転車(デモンストレーション)

2. 2024 年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム 開催準備

2024 年大会の開催に向け、開催方法や開催地の検討等、準備を行う。

III. 国際大会への代表選手団の派遣事業

1. 2022 年スペシャルオリンピックスユニファイドカップ 派遣

アメリカ合衆国ミシガン州デトロイトで開催される、2022 年スペシャルオリンピックスユニファイドカップに日本チームを派遣する。派遣にあたっては、新型コロナウイルスの影響を鑑み、安全に配慮した実施計画を策定し、海外渡航に関する情報収集、危機管理体制の構築等も講じながら取り組むものとする。

開催地：	アメリカ合衆国(ミシガン州デトロイト)
開催日程：	2022 年 7 月 31 日(日)～8 月 6 日(土)
	－ 開会式： 7 月 31 日
	－ 競技： 8 月 1 日～6 日
	－ 閉会式： 8 月 6 日
実施種目：	男性 11 人制ユニファイドサッカー (16 チーム) 女性 7 人制ユニファイドサッカー (16 チーム)
参加者：	アスリート 240 名 パートナー 192 名 コーチ 64 名 団長 32 名 チーム Dr. 32 名 合計 560 名
日本選手団：	20 名(アスリート 9 名/パートナー 7 名/コーチ 2 名/団長 1 名/チーム Dr.1 名)

※4月以降、合宿、練習会等実施予定

2. 2023年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン 派遣準備

本大会派遣に向けた準備を行う。

日程	活動
2022年11月中	選手団選考委員会(オンライン)
未定	Head of Delegation -MTG
12月17日(土)	コーチミーティング①(オンライン)
12月18日(日)	オリエンテーション(オンライン)

【大会概要】

- 開催地： ドイツ連邦共和国(ベルリン)
 開催時期： 2023年6月17日～24日
 ー開会式:6月17日
 ー閉会式:6月24日
 ーホストタウンプログラム: 日程未定
- 参加者： 180の国・地域
 ーアスリート7,000名
 ーボランティア20,000名
- 日本選手団： アスリート 47名
 コーチ、役員、医師 29名
- 実施競技： 24競技/日本選手団は下記9競技に派遣(予定)
 (陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、馬術、サッカー、競泳、卓球、テニス)

競技			
陸上競技	自転車	ハンドボール	セーリング
バドミントン	馬術	柔道	競泳
バスケットボール※1	サッカー※2	カヤック	卓球※3
ビーチバレーボール	ゴルフ	オープンウォーター スイミング	テニス
ボッチャ	体操競技	パワーリフティング	トライアスロン
ボウリング※3	新体操	ローラースケート	バレーボール

※1：バスケットボールは、「トラディショナル5人制チーム競技(女子)」での参加。

※2：サッカーは、「ユニファイドスポーツ7人制チーム競技(男子)」での参加。

※3：卓球とボウリングは、「ユニファイドスポーツ(ダブルス、チーム)」を含む種目での参加。

IV. 知的障害者の地域スポーツ活動振興の拠点となる地区組織等への支援事業

1. 地区連絡協議会、全国事務局長会議、全国スポーツプログラム委員長会議(地区代表者会議)の開催、及びブロック会議の陪席

本年も、オンラインによる開催とし、これらの会議を通じて、SONの事業方針等を地区組織に共有するとともに地区組織との意見交換を行う場として実施する。

2. 地区組織の認定及び更新、地区組織強化支援

全国47都道府県のSO活動の拠点である地区組織の認定及び更新を行うとともに地区組織の基盤強化につなげるため、スポーツ団体ガバナンスコード(一般団体向け)への対応に関する支援等を実施し、地区組織のガバナンス強化につながる認定更新の基準等について検討を行う。

3. 地区委員会

ブロック代表者が出席する地区委員会を定期開催し、各地区組織の組織体制や会計等の運営状況等について情報共有や意見交換を行いながら、地区活動の推進力を高める。

また、今年度は、「持続可能な地区組織運営の手引き」の発行を通じ、地区組織が共通して抱える課題の解決につなげるために、推奨される取り組みや水準を提示する。

4. スポーツプログラム(SP)委員会及び競技部会活動

正副 SP 委員長会議等の定期開催及び各競技部会の活動を通じて、国内のスポーツプログラムや競技会・大会事業等の充実と普及を図る。また、持続可能な競技会・大会事業の検討を踏まえ、具体的な競技会・大会運営計画の策定に着手する。

5. 助成

- ・地区競技会推進支援制度 : 100 万円の助成を予定。
- ・地域 SO 活動への特別助成 : 大会終了後、開催地での更なる SO 活動の発展を支援するためのナショナルゲーム主管地区に対する助成(SON・愛知、SON・北海道)を行う。
- ・SO 活動普及のための新たな助成制度の検討を進める。

V. 知的障害者のスポーツ参加及び健康増進推進事業

知的障害のある人、ユニファイドパートナー等を対象に、生活の質を高めることや、社会参加を促進し、スポーツに限定しない多様なプログラムを提供する。また、ヘルシー・アスリート・プログラム(HAP)等、知的障害者のスポーツウェルネスを増進させるために知的障害のあるアスリートの生活の質(QOL)の向上とスポーツ活動を安全に取り組む健康増進に寄与する。

1. ユニファイドスポーツの競技における普及【Be with all 事業】

2. 多様なアスリートの参加促進

- ・女性アスリートの参加促進
- ・ジュニア層アスリート向けの計画策定
- ・障害や加齢等による運動能力の低いアスリート向けの計画策定

3. ヘルスケアの啓発

- ・HAP 委員会会議やスポーツウェルネスチーム会議の定期開催
- ・ヘルスケアの啓発及びその他推進事業

VI. ボランティア、指導者、審判員等育成事業

1. 指導者養成

- ・SON 認定コーチやこれから認定コーチを目指す方を対象に研修会を開催すると共に、SO グローバル・コーチ・エデュケーションシステム(ラーニング・ポータル)との連動を含め研修制度及び認定更新等について整備を図る。また、専門機関や外部講師等との連携を通じて、研修内容の充実に取り組むものとする。

- ・ コーチクリニック
ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解(Web 会議システムによるオンライン講習)
競技座学(YouTube 視聴によるオンデマンド講習)
競技実技(対面型講習)
- ・ 認定コーチ研修会(オンライン開催等含む)
- ・ トレーナー養成講習会:1 回

2. ボランティア育成

NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークとの連携並びに、オンラインコーチクリニック等により、スポーツボランティアの育成の機会を広げる。また、本年は、夏季ナショナルゲーム・広島に参加するボランティアを対象に研修等による育成を図る。

VII. 広報・啓発事業

1. 広報・啓発

新スローガン「Be with all」に基づいた、ユニファイド活動を中心にスペシャルオリンピックス日本の事業を広く広報する。特に、オンライン上での取り組みや、アスリート自身が発信する広報活動を重点的におこない、スペシャルオリンピックスが持つメッセージと可能性を積極的に発信する。

【Be with all 事業】

- ・ 「ユニファイドスポーツ」をキーとした広報活動、ツールの整備
- ・ 「アスリートアンバサダー」をはじめとした、アスリート自身が発信する広報活動
- ・ アスリートストーリー発表会
- ・ 支援企業、パートナー団体と連携した広報活動、ユニファイドアクティビティ
- ・ オンラインを活用したイベントや広報活動
- ・ SON 各種事業を通じた広報活動

<アスリートリーダー活動の推進>

スポーツ活動以外においても、多様な機会を提供しアスリートの発信力を高め、アスリートリーダー活動の充実を図る

- ・ アスリートアンバサダー活動
- ・ その他オンラインを活用したイベント

2. 資金調達・マーケティング(渉外活動)

事業活動を円滑におこなうための資金調達活動を行う。

SDGsへの取り組みとともに既存支援企業への新たな提案によるパートナーシップを構築する。

3. 外部連携 【Be with all 事業】

- ・ 教育機関等との連携によるユニファイドスクール活動の推進
学校や大学等と連携し、ユースアクティベーションを推進することで共生意識への醸成に寄与する。
- ・ スポーツ団体等との関係強化
推進競技の普及及び大会開催のために様々なスポーツ団体との連携強化を図ると共に、行政機関、各障害者団体、支援先等との連携をより一層深める。

・ユニファイド活動推進のための外部連携

企業や教育機関等と連携し、ユニファイド活動を実施する。

アスリート・パートナー・コーチの拡大を図り、共生社会の理解と促進につなげる。

VIII. 調査研究事業

アクションプランの重要事項でもあるアスリートのアクセシビリティに関する実態調査及びユニファイドスポーツ普及促進のための調査、研究を実施する。

- ・ アスリートのアクセシビリティに関する調査 (ICT 利用の実態・意識調査)
- ・ ユニファイドカップ派遣に伴う選手団 (アスリート・パートナー) の意識調査

以上